

ベトナムで迎えたテト（旧正月）休暇

ベトナムでは、今年1月29日から2月6日までの9日間、テト（旧正月）休暇を迎えました。今回はベトナムのテト（旧正月）休暇の様子や習慣などについてお伝えします。

◆ベトナムのテト（旧正月）

日本の「お正月」は新暦が定着しているのに対して、ベトナムでは、旧暦のお正月「テト」がとても大切にされており、中国並みの長い休暇を家族で過ごすのが一般的です。身内が集まって正月料理を食べるなど、日本とも共通する習慣がありますが、ベトナムでは、職場の同僚や友人同士でも、一年の御礼の意味を込めてお年玉を渡し合う、といった違いもあります。



ベトナム語で「新年おめでとう」

◆テト休暇はいつ？

ベトナムのテト休暇期間は、毎年、約2カ月前に、政府が決定します。2022年は、2回の土日とつながって、1月29日から2月6日までの9連休と、祝日の少ないベトナムでは珍しい大型連休となりました。

ベトナム人にとっては、「年に一度の大型休暇」ですので、期間中に従業員に仕事をさせる場合、企業は通常の3倍以上の給与を支払う必要があります。人件費が上がる分、あらゆるサービスが割高な「テト価格」となります。

◆今年のテト休暇の風景

例年はテトを盛大に祝うために街中で打ち上げられる花火が、コロナ対策で昨年に続き禁止されたため、年越しの瞬間は、何か物足りないとの印象もありました。

しかし、今年の旧暦元旦である2月1日には、サッカーワールドカップアジア最終予選の対中国戦がハノイで開催され、3対1でベトナムが初勝利をあげました。サッカー好きの国民性もあり、ホーチミンの街中もお祝いムードに包まれ、深夜まで爆竹や歌声が続いていました。



◆若者世代とテト

若者の間では、貴重な長期の休暇に、親族が連日、朝から晩まで酒を酌み交わすような習慣を嫌う人も増えているようで、家で過ごす時間が減る一方、観光地や商業施設の人出は年々増加傾向にあるようです。中には「テトで9日間も休むより、別の時期に少しでも祝日が欲しい」といった意見も聞かれません。

（ベトナム・ホーチミン駐在 梶原 康太）

※本稿は、仙台経済界 2022 3-4月号「77グローバルレター」欄に寄稿したものです。

【お問合せ先】

七十七銀行 市場国際部 アジアビジネス支援室
TEL.022-211-9880

【Global Letter NEXT ホームページ】

その他の記事はこちらからご覧ください。

https://www.77bank.co.jp/kokusai/globalletter_next/

本紙記載の内容につきましては、当行が信頼できると考える情報に基づき作成しておりますが、その正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談いただくようお願い申し上げます。